

## 一宮庁舎を建て替えます

一宮庁舎は昭和5年に建設され、その後、昭和35年、46年の2回にわたる増築を経て、現在の姿になりました。また西分庁舎は大正13年竣工の旧東海銀行一宮支店を昭和55年に購入したものです。

尾西庁舎（旧尾西市役所）は昭和33年に完成し、平成16年に東館が増築されました。木曾川庁舎（旧木曾川町役場）は昭和51年に旧役場を新築移転し、講堂が併設されました。合併後、各庁舎単独では規模的に新市の本庁舎としての役割を果たすことができず、3庁舎による分庁方式を採用することになりました。しかし、総務企画部門（一宮）、建設・上下水道部門（尾西）、教育部門（木曾川）などに分散しているために、日がたつに従って、市民や議会から分庁方式の限界を指摘する声が大きくなってきました。

また耐震診断を行ったところ、一

宮庁舎は北側1階部分と南側4階以下部分について補強が必要で、完全な耐震改修は構造上困難なことが分かりました。尾西庁舎西館・木曾川庁舎も耐震基準を満たしていませんでした。

こういった状況を受け、昨年度、新庁舎建設等基本構想策定委員会を設け、建て替えについて検討していただきました。委員会の答申では分庁方式の限界や、耐震性の低さにより防災・復興拠点として不十分であること、情報分野などでのセキュリティ対策や市民との協働の場の確保が困難であることなど、いくつかの問題点が指摘され、すべての機能を集約した本庁舎の整備を早急に進める必要があると結論付けられました。

一宮市のまちの歴史を見ると、江戸時代中期に真清田神社の門前で三八市が開かれるようになり、この地方における流通と生産の中心地とし

て発展してきました。明治19年には東海道線一宮停車場ができ、同22年に一宮村と一色村が合併して一宮町となり、大正10年には人口3万人余りの一宮市が誕生しました。その後、幾度も合併を経て現在の一宮市となつていきます。

昭和20年の大空襲によつて市街地の大半を焼失しましたが、戦災復興事業にいち早く着手し、同27年には尾張一宮駅ビルも完成しました。こうした本市の生い立ちを見ると、真清田神社・尾張一宮駅・市役所が密接に関連し、中心市街地を形成してきたことが分かります。

市では現在、中心市街地活性化基本計画の策定に取り組んでいます。新庁舎が中心市街地に建設されることになれば、駅前ビル・新庁舎・真清田神社とこれらをつなぐ中心市街地商店街の事業展開により、活性化への道筋がより現実味を帯びてきま

す。新庁舎の建設場所について、委員会ではいくつかの候補地について検討されましたが、以上の理由から、現敷地での建て替えがもつとも多くの利点を持つとの結論が出されました。

現敷地で考えた場合、庁舎の東にある新柳公園、駐車場、庁舎と駐車場の間を南北に走る道路を取り込み、西分庁舎敷地を合わせた一体的利用を念頭に再開発をすれば、現庁舎で業務を行いながら建設することも可能になります。同時に、ほかの庁舎の有効利用や出張所の整理統合なども併せて検討し、将来的には地域サ―ビス拠点としてそれぞれの機能強化を図り、市民サ―ビスの向上に努めなければなりません。

今年度、基本計画と基本設計に着手し、合併特例債を活用できる期限である平成27年度には、すべての工事を完了させたいと考えています。